

2022年11月18日

<報道発表資料>

長野県伊那市

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社

令和4年度ウェアラブルデバイスを活用した ウェルビーイング実証事業

長野県伊那市（市長：白鳥 孝、以下「伊那市」）は、令和4年度ウェアラブルデバイスを活用したウェルビーイング実証事業（以下「本事業」）を開始します。

本事業は、ウェアラブルデバイス（身体に装着して使用するIT端末）として排泄予測デバイス「DFree（ディー・フリー）」（別紙参照、以下「DFree」）を活用して、高齢者等の外出機会の創出を通じ、地域生活における生活の質（QOL）向上を図る目的で実施します。

伊那市の委託により、トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：中西 敦士）が本事業を推進し、「DFree」を活用した実証及び効果検証を行います。「DFree」は、下腹部に超音波センサーを装着することにより、膀胱の尿のたまり具合を計測し、事前にトイレのタイミングをスマートフォン等へお知らせする世界初の排泄予測デバイスです。



<事業イメージ>

(裏面へ)

近年、少子高齢化の進行に伴い、高齢者数・高齢化率は増加傾向にあり、その高齢者等の外出を阻害する要因の中で「トイレの心配（失禁等）」が課題となっています。本事業では、市民の方々にトイレの心配を無くして外出していただく事を目的とし、住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けることができるように、高齢者等による外出機会の創出を目指します。

高齢者になると、急な尿意やトイレが近くなり、トイレの失敗等の排尿に関する悩みを抱えることが増え、長野県においても、このようなトイレの心配（失禁等）を理由に、外出を控えているとする元気な高齢者（要支援・要介護認定を受けていない高齢者）は15.8%となっています。また、外出を控えてしまうことや社会との接点が減ってしまうことによって、生活の質（QOL）の低下や心身の健康状態の悪化につながるリスクも懸念されています。

実証モニター参加者募集

- ・伊那市にお住まいの50歳以上の方
- ・排尿に関する何らかの悩みをお持ちの方

※要支援・要介護認定者は応募いただけません。

※実証実験の目的に合わない等の理由で、事務局（受託事業者）の判断により、ご参加いただけないことがあります。

※参加者にはDFreeを装着・利用いただき、外出機会やトイレの不安等に関するアンケートへの回答や排尿回数等を記録いただきます。

（詳細は、参加者募集チラシ等をご確認ください）

● 外出阻害要因（複数回答）

①足腰などの痛み	53.8%
②交通手段がない	19.9%
③トイレの心配	15.8%
④病気	12.1%
⑤外の楽しみなし	11.1%
⑥経済的な問題	9.3%
⑦目の障害	8.9%

※出典：長野県（令和2年8月）

「令和元年度 高齢者生活・介護に関する実態調査等調査結果報告書」

本事業では、トイレの心配を理由に外出が不安な方々に対して、一定期間（最大1ヵ月程度）無償で「DFree」を貸出します。膀胱の尿のたまり具合を可視化し、事前にトイレのタイミングを把握することによってトイレの失敗等への不安が減少することで、利用者の外出への意欲等が向上するかについての実証実験を行います。

D Free 利用方法



■受託事業者・排泄予測デバイス開発会社：トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社
テクノロジーの力で「世界を一步前に進める」ことを掲げ事業を推進し、世界初の排泄予測デバイス「DFree」を企画・開発・販売するスタートアップ企業です。